

## 研修カリキュラム・シラバス

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
1	職務の理解	<p>○研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について具体的なイメージを持って実感できるようになる。</p> <p>○介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って以降の研修に実践的に取り組めるようになる。</p>					
	(1) 多様なサービスの理解	2.5		2.5		0	介護保険や保険外サービスについて講義を行い、身近なサービスを含め理解を深める
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3.5		3.5		0	視聴覚教材にて実際の現場をできるだけ具体的にイメージできるようにする
2	介護における尊厳の保持・自立支援	<p>○介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚する</p> <p>○自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。</p>					
	(1) 人権と尊厳を支える介護	6	5	1			人権と尊厳について講義を行い、尊厳を支えるとはどういうことかなどについて理解を深める
	(2) 自立に向けた介護	3	2.5	0.5			自立に向けた介護について講義を行い、本当の自立支援というのはどういうことを理解する
3	介護の基本	<p>○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づく</p> <p>○職務におけるリスクとその対策のうち重要なものを理解する</p> <p>○介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる</p>					
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	3	1.5	1.5			講義を行った後、家族による介護と専門職による介護の違いについて理解する
	(2) 介護職の職業倫理	0.5	0.25	0.25			介護職としての社会的責任などについて理解を深める
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1			事故や感染などのリスクについて理解する
	(4) 介護職の安全	0.5	0.25	0.25			介護職の健康管理・ストレスマネジメントのあり方について理解する

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	○介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを理解する					
	(1) 介護保険制度	5.5	5	0.5		介護保険制度について講義を行い、介護保険制度の概要やケアマネジメントの理解を深める	
	(2) 医療との連携とリハビリテーション	2	1.5	0.5		医行為の考え方や、一定の要件のもと介護職が行える医行為を理解する	
	(3) 障害福祉制度およびその他制度	1.5	1	0.5		基本的な考え方と障害者福祉サービスなどの理解を深める	
5	介護におけるコミュニケーション技術	○高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることを理解する ○上記に違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識する ○初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する					
	(1) 介護におけるコミュニケーション	3.5	1.5	2		基本的なポイントと言語的・非言語的コミュニケーションを体験し、伝えられない要因と重要性を理解する	
	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	2.5	1.5	1		記録や報告の重要性と介護におけるチームコミュニケーションの必要性と情報共有の場・ケアカンファレンスの重要性を理解する	
6	老化の理解	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づく ○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、自らが継続的に学習すべき事項を理解する					
	(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	1.5	1.5		老化に伴うこころとからだの様々な変化に着目した心理的特徴の理解を深める	
	(2) 高齢者と健康	3	1.5	1.5		疾病の症状や訴え、生活上の留意点などの理解を深める	
7	認知症の理解	○介護において認知症を理解することの必要性に気づく ○認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する					
	(1) 認知症を取り巻く状況	0.5	0	0.5		ケアの理念と現在の状況やケアの考え方の理解を深める	

科目	細目	時間数					講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
		計	講義		演習	実習	
			通信	通学			
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	0	2	/	/	認知症の理解と健康管理の重要性などの理解を深める
	(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	3	0	3	/	/	認知症利用者の生活障害・心理・行動の特徴と具体的な関わり方の理解を深める
	(4) 家族への支援	0.5	0	0.5	/	/	家族への支援の講義を行い、家族のストレスや介護負担の軽減(レスパイトケア)などの理解を深める
8	障害の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>○障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解する</li> <li>○障害者の介護における基本的な考え方について理解する</li> </ul>					
	(1) 障害の基礎的理解	0.5	0	0.5	/	/	障害者福祉の基本理念と障害の概念やICFについての理解を深める
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2	0	2	/	/	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の特徴や支援の考え方の理解を深める
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0	0.5	/	/	障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減(レスパイトケア)などの理解を深める
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する</li> <li>○安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる</li> <li>○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、もてる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する</li> <li>○基本知識の学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、最後に事例に基づく総合的な演習を行う</li> </ul>					
	I 基本知識の学習						
	(1) 介護の基本的な考え方	4	1	3	/	/	理論に基づく介護と法的根拠に基づく介護を理解する
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	0	3	/	/	記憶の構造や意欲を支援に結びつけることの理解を深める
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	0	3	/	/	人体の構造やボディメカニクスの理解を深め、こころとからだを一体的に捉える

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
II 生活支援技術の講義・演習		(50～55時間程度)					
	(4) 生活と家事	5	2	3		生活援助を講義にて行い、生活援助を提供する意味や目的、基本となる考え方を学ぶ	
	(5) 快適な居住環境整備と介護	5	2	3		居住環境の基礎知識を講義にて行い、身体状況に合わせた介護や環境整備の理解を深める	
	(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	2	4	整容の意義を講義にて行い、実技演習にて着脱介助の理解を深める 演習時間内で実技評価を行う	
	(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	2	4	移動・移乗に関するからだのしくみを講義にて行い、実技演習にて移動・移乗介助の理解を深める 演習時間内で実技評価を行う	
	(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	2	4	食事の意味や環境整備の方法を講義にて行い、実技演習にて食事介助の理解を深める 演習時間内で実技評価を行う	
	(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	2	4	入浴や清潔の意味や環境整備の方法を講義にて行い、実技演習にて全身清拭や部分浴の理解も深める 演習時間内で実技評価を行う	
	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	2	4	排泄の意味や環境整備の方法を講義にて行い、実技演習にて排泄の方法等の理解を深める 演習時間内で実技評価を行う	
	(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	2	4	睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法を講義にて行い、実技演習にてベットメイキングや体位変換の理解を深める 演習時間内で実技評価を行う	
	(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3	1	1	1	ターミナルケアの考え方や留意点を講義にて行い、実技演習にて対応方法や介護職の役割の理解を深める	
III 生活支援技術演習		(10～12時間程度)					
	(13) 介護過程の基礎的理解	5			5	介護過程の目的や意義をふまえ、個別援助計画の作成演習を通して展開の理解を深める	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
	(14) 総合生活支援技術演習	5	/	/	5	/	事例の意義や留意点をふまえ、演習にて事例に基づき検討をし、実技演習にて理解を深める 演習時間内で実技評価を行う
10	振り返り	○研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う ○就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る					
	(1) 振り返り	3	/	3	/	/	講義にて研修での学びを振り返り、今後継続して学ぶべきことなどの検討をした後、発表まで繋げ理解を深める
	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	/	1	/	/	講義にて働く現場における継続的に学ぶべきことの重要性とキャリアパスやOJTなどの理解を深める

(参考様式3)

## 実技演習で使用する備品一覧

【高松教室】

種類	台数	レンタル・自己所有の別
車いす	3	レンタル
		自己所有は別紙のとおり

※ 自己所有でない場合は、その確保が確認できる書類（リース契約書の写し等）を提出すること。

# 備品一覧(自己所有) 高松教室

商品名	数量
ベッド(付属品含む)	2
マットレス	2
介助バー	2
オーバーテーブル	2
ルーツセンター (手摺り)	1
イージーモーション (移乗用ボード)	1
ケアスロープ	1
セーフティアームウォーカー (歩行器)	1
三脚杖	2
伸縮杖	2
四点支持杖	2
転ばぬ杖	2
おフロ場セット	1
バスボード	1
グリップ付浴槽手すり	1
バスベンチA型	1
浴槽台	1
移乗(回転)台	1
入浴介助ベルト	1
すべりどめマット	1
洗髪器	2
ステンレスピッチャー	4
足浴バケツ	2
水温度計	2
ドライシャンプー	2
ポータブルトイレ	2
安楽便器	2
便器	2
男女尿器	2
シャワーボトル(ブルー)	2
オムツカバー	2
フラット型オムツ	5

商品名	数量
パンツ型オムツ	5
尿とりパッド	5
介護用食器	3
介護用スプーン・フォーク	3
吸いのみ	10
滑り止めトレイ	5
吸い口水のみ	2
ストロー型水のみ	2
うがいキャッチ	10
マグカップ	10
ストロー付カップ	10
薬杯	2
室内着	2
肩開きシャツ	2
半袖前開きシャツ	2
七分袖前開きシャツ マジックテープ	2
ガーゼねまき	2
ケアねまき	2
シーツ	2
防水シーツ	2
テンホールマット	2
ビーズソフトマット	2
ドーナツパッド	2
ビーズソフト円座	2
ビーズスティック (にぎり幅 2.5cm)	2
電子血圧計	2
ラテックス手袋	100
机	10
いす	20
ホワイトボード	1
教卓	1
口腔ケアモデル	1